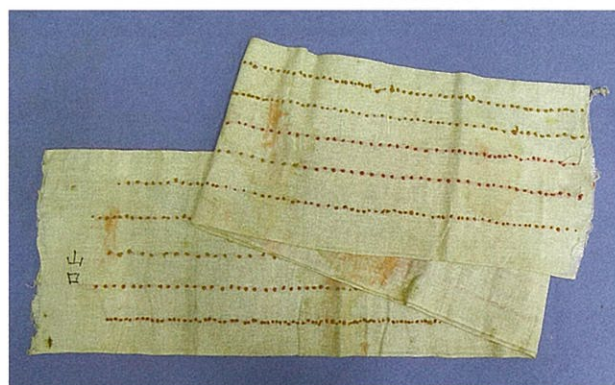
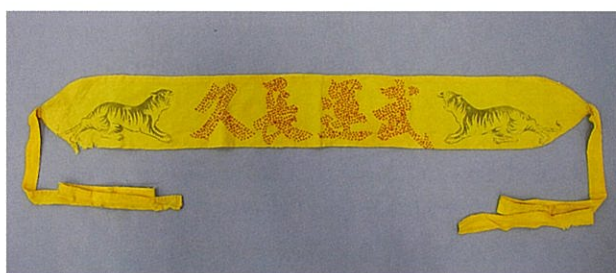


柏崎市立博物館友の会 ◆〒945-0841 新潟県柏崎市緑町8-35 赤坂山公園内 TEL 0257-22-0567

博物館モノがたり

千人針—戦争関係資料を伝える—



上: 玉留めによる「武運長久」の刺繍・虎の絵
下: 玉留めによる日の丸の刺繍・五銭硬貨

上: 玉留め・「力」の文字の寄せ書き・五銭硬貨
下: 直線に刺繍された玉留め

戦後80年となる令和7年(2025年)。当館で所蔵する戦争関係資料の中に千人針があります。文字通り、千人の手によるもの。弾除けの御守りとして出征兵士に贈られ、兵士は腹に巻いたり帽子に縫いつけたりして身につけました。

赤い糸の玉留めには「弾を止める」「魂をとめる」、返し縫いには「無事に還る」の意味が込められています。虎の絵を刺繍や墨書で描いたものは、虎は「千里を行き、千里を帰る」という言い伝えにあやかっただけで、寅年生まれの女性は自分の年齢の数だけ玉留めをつくったといわれています。また、硬貨が縫い込まれたものもあり、五銭硬貨には死線(しせん=四銭)を超える、十銭硬貨には苦戦(くせん=九銭)を超えるという意味が込められています。どれも兵士の生還を祈るもので、一枚の布が弾除けになると信じるしかなかった人々の思いがにじんで見えます。

当館では、常設展示に戦争のコーナーを設け、毎年夏にはロビー展示も開催しています。戦争をテーマにした展示はどこも似ていて、毎回同じような資料がならぶと思われる方もいるかもしれませんが、そこに独創性や目新しさはあまり必要ないと思います。同じことの繰り返しでも細々とでも、続けていくこと、伝えていくことに意味があると思うからです。(早川 美奈子)

学芸員のオタク講座⑨ 素潜り漁の民具のはなし 8月31日(土)13時～15時 参加者9名



市内では笠島の海女(士)漁が知られますが、地先に豊かな岩礁海岸を持つ県内の漁村では昔から様々な素潜り漁が行われてきました。講師の池田学芸員は、長く県内各地の素潜り漁を調査してきましたが、今回は浮子や金属製の棒などの素潜り漁の道具を通して各地の地域的な特色が示され、参加者もその多様性を理解することができました。

探訪!となりの博物館② 一糸魚川編― 木地屋とヒスイ峡とおてこ舞

9月1日(日) 中止

見学会の数日前に発生した台風10号が非常に強い勢力に発達し、数十年に一度しかないような大規模な災害の発生が予想されていたため、安全第一として今回の行事は「中止」とさせていただきました。その後の台風はというと、気象庁の予想を上回る遅さで進路を迷走し、行事日に熱帯低気圧となりました…。またリベンジしましょう!



学芸員のオタク講座⑩ 刷り物の世界

9月28日(土)13時～15時 参加者5名

早川学芸員が担当した2024年度春季企画展「刷り物博覧会」の内容を振り返りながら引札の更なる魅力について講義で学んだあと、柏崎で古く使用された版木を使い木版刷りを体験しました。柏崎に昔からある商店の版木のほか、参加者の気に入った様々な図柄を写し取り、当時の宣伝の仕方や暮らしの一端を感じることができました。



渚の宝もの① 高浜海岸で秋のビーチコーミング 10月23日(水) 9時～11時 参加者6名



今回は久しぶりの浜歩きということで、楽しみにしていました。当日は雨と強風の心配がありま

したが、午前中はその心配もなく、参加者は博物館職員2名を含め8名で、ビーチコーミングを楽しむことができました。今回の高浜海岸には、ビーチグラス・貝があがっていて、いつもは歩きながら探すのですが、あまり移動しなくても拾うことができました。参加者の中には、非常にレアな色やおもしろい形のビーチグラス、陶磁片、やしの実や身が入ったサザエをたくさん拾った方もいて、あっという間の時間でした。最後に、皆さんの気に入った物を並べて記念写真を撮り無事に終了となりました。

(副会長 村田千代子)



友の会行事報告

【1泊見学会】美味巡礼 御食国・若狭小浜を歩く ―鯖街道と北前船で栄えた歴史と文化― 11月1日(金) 6時30分～2日(土)18時 参加者13名



御食国若狭おばま食文化館



空印寺



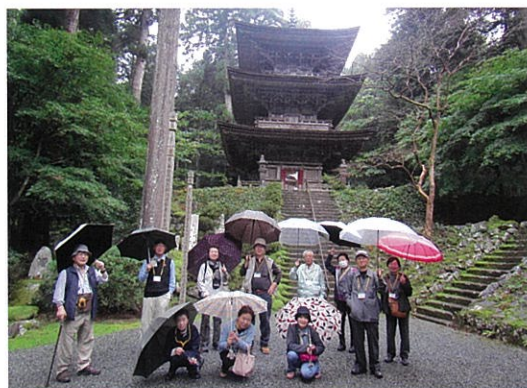
小浜まち歩きで集合写真

2024年友の会1泊見学会は11月1,2日に小浜市と若狭町をまわってきました。傘を離せない2日間でした。日程終了し柏崎に向かって13時過ぎ、小浜で1時間雨量24mmの土砂降りとなりました。これを回避できラッキーでした。

古くから若狭の海でとれた主に鯖が小浜から京都へ運ばれたことから「鯖街道」と呼ばれ、その起点となったところです。街道は数ルートあり、人が担いで一日で京都まで約72kmを掛け抜けました。華やかな文化を持つ京都との活発な交流で小浜の食文化が発展してきました。人口が3万人以下でありながら歴史的な寺社もたくさんあります。食と歴史の町です。宿泊先が「料理旅館」を名乗るだけあり食事は美味しくいただきました。

1日目は、若狭おばま食文化館を見て、ガイドさんの案内で古い町並みを散策しました。明通寺、八百比丘尼伝説の空印寺を回りました。2日目は若狭姫神社(下社)、鵜の瀬、神仏習合の神宮寺、熊川宿を散策し11時過ぎ鯖寿司定食をいただき、道の駅に寄り全日程を無事終了しました。短時間で有名なスポットを多数見学して少々記憶が混乱しています。

熊川宿は鯖街道で一番の宿場町でした。(会員 押見正孝)



明通寺三重塔



料理旅館



熊川宿

和紙のはがきづくり

11月12日(火) 9時～14時20分 参加者2名

自然の材料を贅沢に使っての紙漉きの時間は「無」になれる素敵な時間でした。遠い昔、紙はとっても貴重なものでした。今のように大量生産される日常では、その有り難みさえ忘れていた自分がいます。一枚一枚丁寧に漉き上げる工程は「もの」への感謝の時間だと思います。他所では簡易的な材料で紙漉きの体験がおこなわれる中、柏崎市立博物館では遠い昔から受け継がれてきた本来の紙漉きを体験させていただけます。それもとてもお財布に優しい参加費です。漉いた紙は葉書サイズですが、コースターや葉、和菓子等をのせるお皿にしたりと、葉書として使うだけではなく様々な場面で活躍してくれます。体験がまだの方は、年に一度のチャンスを見逃さず是非ご参加されてください。ふらっと行って紙漉きが楽しめるように沢山の準備をいただき、漉いた紙の水を切り乾燥まで、仕上げに筆滑りが良いようにとサンゴジュの葉で優しく拭いて仕上げをしていただき、至れり尽くせりです。あらためて、宮路先生はじめ博物館の職員の皆様に感謝申し上げます。

(会員 小越由美子)



お申込み方法

行事の申し込みは**1月4日(土)9時から**受付いたします。※12月29日(日)～1月3日(金)は休館です

電話で友の会事務局(0257-22-0567)にお申込みください。

その際、参加者全員のお名前、連絡先(できれば携帯番号)、友の会会員か非会員かをお知らせください。



クバ・シュロの葉の手籠づくり

沖縄産の大きなクバの葉でおしゃれな手籠をつくります。シュロのミニ手籠も!?

日 時 1月25日(土) 9:00～12:00
会 場 博物館小ホール
講 師 宮路さつきさん
定 員 12名(先着順)
用 意 エプロン
参加費 会員 700円 非会員 1,200円



田村光一さんのそば打ち道場

田村名人の手ほどきで美味しい手打ちそばをつくります。

日 時 2月21日(金) 9:00～12:00
集 合 剣野コミュニティセンター
講 師 田村光一さん(全麺協そば道段位3段)
定 員 15名(先着順)
用 意 エプロン・三角巾・タオル
参加費 会員 500円 非会員 1,000円



渚の宝もの②ビーチグラスの目地詰めオブジェづくり

ビーチグラスや貝・陶磁片などを材料に、目地材を使って素敵なオブジェをつくります。

日 時 3月8日(土) 9:00～12:00
会 場 博物館小ホール
講 師 渚を楽しむ会会員
定 員 15名(先着順)
用 意 軍手・エプロン
参加費 会員 500円
非会員 1,000円



作品のイメージ

春の和菓子づくり

牡丹・椿・桜など、美味しい季節の和菓子をつくります。

日 時 3月21日(金) 9:00～12:00
集 合 剣野コミュニティセンター
講 師 金子豊さん
(つるや菓子店主)
定 員 15名(先着順)
用 意 エプロン・三角巾・タオル
参加費 会員 600円
非会員 1,100円



ふきのとう 梅 水仙
牡丹 椿 桜

事務局退任のごあいさつ

このたび、一身上の都合により退職することとなりました。短い間でしたが、これまで大変お世話になりました。友の会に携わらせていただいたおかげで多くの貴重な経験ができ、会員の皆さまからはお会いするたび気さくに話しかけていただいたりと、いつも嬉しい気持ちでいっぱいでした。これからは皆さまに支えられながら、友の会が、楽しい学びの場として発展していくことを願っています。本当にありがとうございました。(中村百音)

2024年も残り僅かとなりましたが、皆様にとって今年はどうな年でしたでしょうか? 今年も多くの皆様から博物館友の会行事にご参加いただきありがとうございました。来年も学芸員と共に現地学習や日本文化の体験講座等に引き続きご参加いただきますようお願い申し上げます。さて、来年は巳年です。干支にちなんで金運アップと行きたいものです。2024年は元旦早々に能登半島地震が発生し、未だ倒壊した家屋の撤去が出来ていない状況です。2025年は、災害のない年であって欲しいと願うばかりです。(副会長 田村光一)